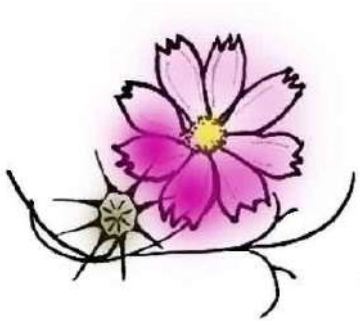
NPO法人園芸療法研究会西日本

NEWS LETTER 'HANATOWA'

はなとわ

2023 年 10 月 1 日発行
H.T.W. NEWS 通巻第 118 号
〒664-0831 伊丹市北伊丹 3-6
TEL＆FAX 072-783-8739
URL　http://www.ht-w.org/
E-mail：info@ht-w.org



速報「遊山の会」　高知県立牧野植物園
牧野富太郎博士の自然観　植物愛に感動

宮上　佳江（ＮＰＯ法人園芸療法研究会西日本 理事長）

2023 年 9 月 30 日（土）当会会員 6 名が、午前 9 時に高知県立牧野植物園に集合。ほかに高知市在住会員の矢吹富子さんのお声掛けで高知から 5 名が午後から参加。当日は牧野富太郎博士をモデルにした NHK 朝の連続テレビドラマ『らんまん』の最終回翌日にあたり、同園はこの秋最も混雑する日と予想されていました。植物園スタッフも多忙を極める中、13 時半から約 1 時間をかけて園内の見どころを職員の松本さんに案内していただきました。この植物園ガイドツアーが秀逸でした。

昨年 11 月より準備、担当してくださいました客野茂樹さんと、牧野植物園ボランティアを長年続けてこられた矢吹富子さんの連携で 2023 年の遊山の会を無事開催できました。深く感謝します。

親子でわくわく園芸プログラム　2023 年度前期第３回　報告

柏木知以子（園芸療法講座１期生）

2022 年度に始めた、長居植物園と当会のコラボ事業「わくわく園芸プログラム」の報告です。
今年度は前期３回（4 月～6 月）、後期３回（9 月～11 月）のスケジュールで、植物の育ちと季節を感じてもらえるような内容にリニューアルしました。前期のプログラムは４月「たねをまこう」5 月「ふやしてみよう」で、この日 6 月 17 日は前期最後３回目「そめてみよう」の開催です。
参加者は、午前８組（子ども１１名大人１３名）午後８組（子ども１０名大人 11 名）でした。

「アイタデ」を使ってハンカチを染めよう
４月の１回目「タネをまこう」の時に、「アイタデ」の苗植えを体験しました。小さかった苗がボランティアさんに育ててもらい、プランターいっぱいに大きく茂っています。アイタデの葉を使った染め物は、発酵した葉を使うものが一般的ですが、生きた植物と触れあってもらうために、今回は積んだばかりの葉っぱを使って「たたき染め」と「生葉染め」に挑戦してもらいます。

４月の苗

プランターで育ったアイタデ

たたいて！たたいて！！「たたき染め」
　こどものプログラムは、生の葉の形をそのまま布に写し取る「たたき染め」です。育ったアイタデのプランターから葉っぱを摘み取り、ハンカチの上に並べます。お花、おさかな、カマキリなど、思い思いの形に並べたら、ラップでカバーをして木の棒でトントンと叩きます。葉っぱの細胞をこわして、ハンカチに色がつくまでしっかりたたかなくてはいけない作業です。ここでは重たいハンマーを持ったお助け隊スタッフが大活躍。きれいな色がつくように、みんなでたたいて！たたいて！

たたき染め

もんで！もんで！！「生葉染め」

おとなのプログラムは、絞りの模様を作り、ミキサーにかけた生葉の染色液につける「生葉染め」です。こどもがトントンしている間に、おとなはハンカチに絞り模様を作ります。ビー玉と輪ゴムを使って模様を作ったら、ジップロックの袋にハンカチと染色液を入れしっかりもみ込みます。生のアイタデの葉と水をミキサーにかけた染色液の染まりやすいタイムリミットは 30 分。ここではミキサー隊のスタッフが大活躍。こどもも大人も一緒に、しっかり染まるようにもんで！もんで！袋から染色液がもれちゃうぐらい、一生懸命もんでくれた人もいました。

生葉染め

洗って！干して！「記念撮影」

植物園のテラスで、染めたハンカチを洗います。お天気も良く水を使った作業が気持ちの良い日でした。みんなでワイワイ作業をしながら、緑色の葉っぱで染めた白いハンカチが青く染まるという不思議を感じてもらえていたようです。

染めたハンカチと記念撮影

染物のプログラムについて

染料が定着するまで〇分、洗って渇くまで〇分と時間短縮することのできない工程があるため作業が中途半端になることが不安でした。そこで時間割ポスターを使って工程を見える化しました。今回は大きなハプニングなくプログラムを進めることができましたが、ミキサー担当のスタッフさんは別部屋でひたすら作業ですし、準備も片付けも道具も多く、かなり大変なプログラムでした。

わくわく園芸プログラムの今後の課題

長居植物園という場所、園芸療法研究会スタッフという資源を生かしたプログラムの試行錯誤を積み重ねています。参加するこどもさんのわくわく体験とともに、支えるスタッフにとってもわくわくする経験です。ぜひ多くの方にスタッフとして関わっていただきたいです。

長居植物園のプログラムへのお問い合わせは事務局へメールでご連絡ください。info@ht-w.org

親子でわくわく園芸プログラム　2023 年度　第 4 回　報告

尾崎　敏枝(介護老人保健施設　和佐の里)

長居植物園×当会の事業　“植物園で笑顔になろうプロジェクト”　「親子でわくわく栽培プログラム」2023 年度第 4 回が開催されました。この日は屋外の活動だったので、とても暑かったのですが、子供たちは元気でやる気いっぱいで活動を楽しんでいました。

【活動概要】

・日時：令和 5 年 9 月 9 日（土）晴れ
　午前の部　10：30～12：00
　午後の部　14：00～15：30
・場所：長居植物園　ライフガーデン北側通路、キッチンガーデン
・スタッフ：8 名
・参加者：午前 8 組（子供 2～9 才）　午後 5 組（子供 4～8 才）
・活動のテーマ：「タネをまこう」　秋のタネまき
・プログラム内容
　① タネのいろいろ
　② コスモスの種まき
　③ 大根の袋栽培
　④ キッチンガーデン見学
・記録シートとアンケートの記載

【プログラムの様子】

①タネのいろいろ

ピーマンの種を探す

ひまわりの種を取り出す

野菜：ピーマン
花：ひまわり、ふうせんかずら、ワタ
実を割って中からタネを探して取り出して観察しました。

虫メガネ持参の参加者発見！まるで牧野富太郎先生みたいです。
「いろんなタネを見られてよかった」との声や 2 才の子も楽しく見ていたそうです。

虫メガネ持参で観察

②コスモスの種まき

セルトレイに土を入れてからタネを蒔いていきます。親御さんがタネを数えて子供に渡している組もありました。　「コスモスの種は細くて柔らかかった」と、タネを蒔くことは大変なのに、しっかりと観察し、感じてもらえた子供さんもおられたようです。

コスモスの種まき

③ダイコンの袋栽培

袋は土のう袋を使用しました。これに自分のダイコンとわかるように最初に子供さんに名前を書いてもらいました。この時にお絵描きが好きな子がいて、袋に大きく自分の顔を描いてくれました。（すばらしい！）

土のう袋に種をまく

袋に大きく顔を描く

④キッチンガーデン見学

植物園のボランティアさんからキッチンガーデンの説明がありました。このとき、4 月に蒔いたワタ、キッチンガーデンにある野菜も観察しました。

キッチンガーデン見学

水やり

【記録シート】

活動に際して、プログラムの前後に記録シートを子供さんたちに書いてもらいました。子供さんたちの感想では、開始前は、「わくわく楽しみ」、「どきどき」、笑顔を描いている子もいました。プログラム後は、「楽しかった」、「やさいとりたい」、「そだてたい」、種の形や感触を書いている子供もいました。親御さんからは、「子供のやる気がどんどん出てよかった」、「おうちでもやってみようと思いました」など、子供が興味関心を持ってくれたこと、普段できないことができて親子ども楽しめたことを書いてくれていました。

ある参加者の記録シート(4 歳)

【最後に】

子供たちの好奇心、やる気ある姿が印象的でした。途中で投げ出す子はまったくなく、初めてのことでも集中して自分ですすんでどんどん挑戦していく姿に感心しっぱなしの一日でした。今回、種を蒔いたダイコンは、11 月のプログラムの時に収穫をするそうです。ダイコンが土から出てきた瞬間の子供たちの様子を見るのが今から楽しみです。

さて、次回のプログラムは、10 月 21 日（土）「秋の野あそび草あそび」～どんぐりひろい～　植物園のモノ知り博士と植物園巡りです。どんぐり拾い、どんぐりでマラカス、松ぼっくりでけん玉、たらようのはがき、マツバ相撲を予定しています。秋らしくよい季節を迎える時期での活動となります。またまた子供たちの好奇心くすぐる楽しいプログラムを企画。親御さんたちも一緒に楽しく過ごせてもらえると思います。

速報「遊山の会」高知県立牧野植物園 に参加して

林　典生（南九州大学）

ただいま、私は都城に戻る旅路の中で書いています。後でも書いているのですが、今回は弾丸ツアーでしたが、それでもすごく良かったぐらい今回の遊山の会が大変良かったです。

実は私の母親が高知の室戸出身であり、縁もあってか、16～17 年前に仕事の関係で、牧野植物園に行ったことがあります。その時は平日もあってかなり空いていて、ゆっくりと散策しながら植物の様子を見学していました。

今回の遊山の会で、久し振りに高知かつ牧野植物園に見学できるとのことで申し込みました。仕事の都合で金曜日の夕方に都城から鉄道を乗り継いで、金曜日の夜 24 時すぎに高知に着き、一泊して、土曜日の朝 9 時に牧野植物園に到着しました。その時に他の参加者や現場の関係者とのコーディネートをされている矢吹さんにお会いして、打ち合わせ後、早速温室を見に行きました。

温室入口の石敷きがかなり美しく、思わず入り口全体の写真を撮りました。また、温室の中にある植物がバニラ、ヤコウボクといった香りのする植物やカカオ、サボジラ、ドラゴンフルーツといった熱帯果樹も植わっていました。特にカカオの幹に小さい花が咲いており、またカカオの実が成っているのを見るとすごく感動しました。植物の配置もいろんな視点からでも楽しめる様にされており、皆様におすすめです。

昼食後に、牧野植物園の職員の方に案内していただきながら、牧野植物園に植わっている植物そのものや牧野富太郎と植物の関わりだけではなく、何故この地に牧野植物園ができたのかについても植物園ができる前の五台山の由来やお遍路さんの歴史も含めてお話を聴くことが出来、貴重な学びを得ました。

その後、牧野富太郎が作成された様々な植物のスケッチや植物分類を行うのに必要な標本に関する展示が行われており、牧野富太郎がどれほど植物のことを愛していたのかすごくわかりました。また、これらの標本は現代においても様々な科学を行う上でも後世に残した貴重な証拠として活用されていることを知り、大変勉強になりました。

最後に矢吹さんから、牧野植物園に関わる地域住民の支えや熱い思いをお伺いすることが出来、以前に宮崎県にある 2 つの植物園のことを紹介いたしましたが、その関係者をはじめ、園芸療法研究会西日本の関係者の皆様にもぜひ体感していただけると貴重なものが得られると思います。

今回の遊山の会について関係者の皆様に感謝を述べる次第です。ありがとうございました。

※ 次号にも「遊山の会」報告記事を掲載予定です

植物の力を借りて私たちにできること XII
（保田茂先生と有機農業のこと）

ふぁーむ＆がーでんヒフミ　村田靖子

さて、そろそろ私の連載も終わりに近づいてきました。園芸療法に出会ってから導かれるように今いる場所に運ばれてきたそんな 20 年だったように感じます。これも植物とともに生きる不思議でしょうか。毎年、春に種を蒔き、植物が生長するのを見守りながら、自らの生きる時間も大切にする術を自然から倣いました。それは私が年を重ねるごとにより深みを増してきているように感じます。命の不思議を体験しながら生かされていることの有難さを身体で実感する日々の積み重ねだからだと思います。

あと数回でこの連載を終えたいと思っていますが、その前にどうしても触れておきたいのが「食」のこと。私を最初に園芸療法に導いて下さった保田茂先生のことをご紹介します。神戸大学名誉教授という肩書の保田先生ですが、農薬と化成肥料を使って大量生産が推奨されていた当時に、それらを使わない「有機農業」を神戸大学の農学部でご専門とされてきた先生は、周りに賛同者はほとんどいなかったと若いころのお話を聞かせて頂いたことがあります。

今でこそ自然環境の保護や生態系という考え方も認知され、農薬や化成肥料に頼らない農業を実践することが珍しくなくなりましたが、大量生産、大量消費を掲げ高度成長を目指した昭和 40 年代の日本では有機農業を説く保田先生は変わり者扱いをされたという事実。それでも、保田先生は、大学における研究に留まらず、兵庫県内で有機農業に従事する生産者と阪神間に住む消費者を繋ぎ、有機野菜が欲しい人に直接届く仕組みづくりを行うなど実践家としても活躍されてきました。

そんな保田先生は、８０歳を超えた今なお現役で、兵庫県内１２か所で有機農業塾を開講されています。有機農業塾では、有機農業の実習と座学の２部制です。季節が厳しい時でも先生ご自身が率先して、畑で野菜作りのお手本を示されます。先生が考案された米ぬかなど使った保田ぼかしの作り方も教えて貰えます。座学では「皆さん、朝ご飯は何を食べられましたか？」、「日本の農業を支えるためには、朝食をパン食にするのではなくてご飯を食べることが日本の田んぼを維持し農業を元気にするために私たちがまず出来ることですよねと」と釘をさされます。このような保田先生の生き方やお話は多くの人を魅了し、お米作りをする人、農業を志す人、野菜作りを始める人、老若男女問わず行動する人材がどんどん育っています。

昨年の園芸療法研究会西日本の講演会にも保田先生にお越し頂きました。健康的な野菜作りには微量元素などにも配慮した土づくりが欠かせないこと、化成肥料などを使い促成栽培された野菜と、しっかり完熟した腐葉土などが漉き込まれた土壌で育った野菜との違いは、丈夫な根毛が生えているかどうかということ、そしてそれが私たちの健康を支える一例であることをご紹介下さいました。ラットを使った実験で、食物繊維など固形の飼料を与えられたラットと、点滴のような液体の栄養剤のみを与えられたラットでは、たった２週間で後者が消化器官の小腸の柔毛が退化してツルツルになってしまうという例をあげ、消化に手間取るけれどもしっかりと形ある健康な食べ物、すなわち根毛の生えたような野菜を食べることが、私たちの消化器官の柔毛を作り、健康な身体づくりに繋がるとお話されました。

講演会を終え、保田先生を駅までお送りする車中で、今の日本は病院ばかりが立派になっていくと嘆いておられた姿も忘れることが出来ません。健康な食べものを選ぶことが自らの健康を作る基本であることを忘れてはならないと思います。

園芸療法のマネジメント 第 52 回 夏休み期間の取組を紹介いたします

林　典生（南九州大学）

いつもお世話になります。林です。前回は農福連携で記事を書いておりますが、現在調査をしております。つきましては、調査の結果がまとまりましたら掲載いたします。今回はウイズコロナの中で、夏休みの取組について紹介いたします。つきましては感想等は林の以下のメールアドレス　nhayashi@nankyudai.ac.jp　までご連絡いただけると幸いです。

1. 南九州大学環境園芸学部学生対象園芸療法実習（南九州大学都城キャンパス：8 月 16～18 日、21～23 日　計 9 回）の取組紹介

今年度の園芸療法実習は前々年度の完全オンライン型実習、前年度の学生のみ対面型実習とは異なり、様々な活動現場の利用者を対象に、しょうがい等の有無を問わずに親子も含む様々な人との交流を楽しむこと目的に実施いたしました。

第 1 日目に 10 名の学生自身が考案したワークショップの企画を発表･意見交換後、今回お世話になる都城圏内の学童保育や放課後等デイサービスについて紹介しました。その後、映像教材を用いてしょうがい当事者とのコミュニケーションの取り方を確認するとともに、園芸活動プログラムをしょうがい疑似体験しながらペアになって実施した。最後に、ワークショップ実施に向けて学生同士で企画したワークショップのブラッシュアップを行いました。第 2 日目にブラッシュアップしたワークショップを学生同士で体験させながら、準備から実施・意見交換及び片付けを交代しながら実施いたしました。

写真 1（左）学生同士で企画したワークショップについて意見交換を行う風景
写真 2・3（中央・右）学生が企画したワークショップ内容

第 3 日目から第 6 日目は午前と午後にともに 1 回ずつ、様々な学童保育や放課後等デイサービス利用者（保護者・職員も含む）を対象に実施いたしました。今年度はコロナ禍前にお世話になっている活動現場が久しぶりに大学に行って学生との交流を楽しむことが出来るとあり、各回 11～29 名計 160 名が参加し、最低でも 2 つのワークショップに参加できるようにしました。

特に、関わっている現場職員の部署変更に伴い、車椅子・バギー利用等の重度重複しょうがいの子どもも含む、かなり手厚い支援が必要な子ども達も参加いたしました。現場職員からは最初不安でしたので、事前に何度も打ち合わせを行うとともに、こまめに連絡を取り合って進めてきました。

後で学生が話していたのですが私の授業中に視聴していただいている映像資料では見たことがあるが、初めて接して貴重な体験を得ることが出来たとコメントをいただきました。また、活動現場職員から学生の皆様の接し方がすごく丁寧で良かったことやなかなか外に行く機会すらなく、貴重な機会を与えていただきありがたかったですとのコメントや子ども達だけではなく職員も楽しむことが出来て良かったとのコメントをいただきました。

また、子ども達も楽しかったコメントやお兄さん・お姉さんに良くしてもらえたコメントならびにもっとお兄さんとお姉さんと一緒に関わりたいとのコメントをいただきました。

他の活動現場でも同様の声をいただくとともに、例えば、ある放課後等デイサービス利用している子どもが併用している学童保育の子ども達に見せたところ、あまり会話をしない子ども同士の会話がはずんだとのお話もいただきました。

写真 4・5(左・右)しょうがいの有無を問わずに楽しめるガーデニングワークショップの実施風景(左：放課後等デイサービス利用者の皆様、右：学童保育利用者の皆様)

また、ワークショップ終了後に学生と意見交換する中で、今回印象に残った内容を以下の通りに紹介いたします。その内容は『3 年目で初めて話をする学生がおられて、いろいろと話ができた。特に（1 年生の時がオンライン授業が主でかつ、学生同士でコロナ禍で話することが出来ていないので）このワークショップが 1 年生の時にあれば、皆ともっと打ち解けることが出来たのではないか。』とのことで、コロナ禍の中で入学した大学生にとってもいろんな人と関係を形成できる貴重な体験の場を築くことが出来たと感じました。

但し課題として、この時が雨の中で車いす・バギー利用児童の車の上げ下ろしが大変だった（放課後等デイサービス)、職員が作成したチラシの説明不足で子どもと一緒に参加された保護者が迷われた（学童保育）といった移動関係の課題や

また、学生が体調不良で 10 名中 1 名がワークショップ 1 日分欠席し、子ども達が楽しみにしていたのにできずに落胆されたことがありました。なお、欠席していた 1 名の学生は通常より出席状況は良好であり、他の学生も通常より出席状況は良好であり、学生自身も楽しかったとのコメントもいただきました。

最後に学生が自主的に材料調達を行うが、多くの方が参加されて売り切れになる状況があり、代替プログラムを実施や日頃より材料のストックを行う必要（代替プログラムも含め)、設備等も確保する必要があることが明らかになりました。

楽しい園芸療法の実践をめざして 第40回　新型コロナに感染しました

青木　弘美（介護老人保健施設 いつでも夢を）

屋上庭園のヒマワリ（2003年7月中旬撮影）

“暑さ寒さも彼岸まで”と言われますが、今年は“暑さは彼岸を超えて”となりそうです。また、例年秋のお彼岸前になると咲いていた“ヒガンバナ”が、今年は彼岸の入りをしてもほとんど開花しておらず、開花が遅れています（兵庫県洲本市近辺）。

【新型コロナに感染しました】

9月中旬、いつものように介護老人保健施設いつでも夢をでの園芸療法を終え、片づけをしていた時です。蒸し暑いはずなのに何故か「ブルルッ」と急に寒気がしたので、何かおかしいと思いつつも記録作業を行い、車で帰路につきました。帰宅途上で急に発熱し始め、だるさで何度も休憩を取りながら、翌未明にやっと帰り着くことが出来ました。それから丸1日半、39度前後の熱が続いて苦しんでいる時、テレビの情報番組で「9月末まで新型コロナの服用薬が無料で処方してもらえます。基礎疾患がなく高齢者でなくても出してもらえる薬があるので、感染して症状に苦しんでいる人は、薬を処方してもらうと良いですよ。回復日数が平均1日程度縮まります」と発信しているのを聞き、早速、治療薬「ゾコーバ」を処方してもらいました。医師からは「この薬を処方するのは初めて。（ハイリスクでない患者は）誰も薬を出してって言わなかったから」と珍しがられました。その後、母も感染し（私がうつしたのですが）、受診すると、私とは違うハイリスク患者用の治療薬「ラゲブリオ」を処方されました。95歳の母が感染してしまったので、母が「感染のため死亡」などということになったら大変だと思うと、自分の不調どころではなくなりました。母は発症後すぐに治療薬を飲みだしたからか、不幸中の幸いで、比較的症状も軽く快方に向かうことができました。ホッとしました。

また、私が発症した前日や当日の園芸療法参加者に感染者が出ておらず、重ねてホッと胸をなでおろしたことでした。

ただ、今から思い返しても、どこで感染したかが全く分かりません。外食をすることもなく、スーパーやホームセンターなどにしか行っておらず、必ず不織布マスクを着用していました。仕事の施設内でも同様です。また常時アルコール消毒液を携帯していて、何かに触るなどした際には頻繁に消毒をしていました。受診した医師が「みんな、どこで感染したのか分からないのよ」と言っていましたが、ウイルスが感染し易くなっているということでしょうか。

フラワーアレンジメント

さて、いつものように、老健いつでも夢をでの園芸療法のご紹介をさせて頂きます。

9月から新しい施設長（医師）が着任されました。新施設長は園芸療法に興味を示されたようで、初めて声を掛けて頂いた言葉が「君は何か公的資格を持っているの？」で、少し驚きましたが「兵庫県立淡路景観園芸学校を修了して兵庫県知事認定の園芸療法士資格と日本

園芸療法学会認定の上級園芸療法士を持っています」とお答えしました。また、以前勤務しておられた病院では園芸療法士は常時、作業療法士と一緒に園芸療法を実施していたとのことで「作業療法士と一緒にしないのか」と尋ねられたので「ここでは園芸療法士だけでやっています。そちらの病院では診療報酬を得るために作業療法士と一緒に行っているのではないでしょうか。ここは園芸療法で介護報酬を得ていないからだと思います」と説明しました。そして「淡路景観園芸学校では“認知症高齢者は、（短期）記憶は失われるけれど、感情は残る”と教えて頂きました。楽しい活動で気持ちが穏やかになり、認知症の周辺症状の軽減が見られるということもあります。実際に学会発表をさせて頂いた症例もあります」と高齢者に対する園芸療法の有用性についてお話をさせて頂きました。新施設長は「いつか園芸療法をやっているところを見せてもらいたい」と言われたのですが、私が新型コロナの発症をしてしまったので、そのままになってしまっています。

[多肉植物の植付け]

デイケアの園芸療法で、多肉植物を籠に植え付けました。(写真①)寒くなると紅葉する“火祭り”と“ミルクブッシュ”を用意し、ミルクブッシュは、切り口から出る樹液に毒性があり、かぶれるので、特徴を説明した上で希望者だけに使用して頂きました。数週間後、デイケアの利用者から「作った多肉植物が元気でいるよ」とご報告を受け、無事に育っていることを一緒に喜びました。

①多肉植物の植付け

[ドライフラワーのケーキ作り]

②ドライフラワーのケーキ

例年行っているプログラムで、ドライフラワーを使用したケーキです。（写真②）
帝王貝細工、千日紅、スターチス等を使用してケーキに見立てて飾り付けて作ります。このケーキ容器は中に給水スポンジがセットされた状態で、100 円均一で売っていますので、ボンドとドライフラワーを用意するだけで作ることができます。とても簡単な上に、できた作品は見栄えがして可愛らしいので、皆さん喜んで持ち帰られます。ドライフラワーも比較的大きくて掴みやすいので、身体機能が低下している方、認知機能が低下してきている方でも行いやすいと思います。ただ、何でも口に入れようとされる方や異食傾向のある方には、注意をして見守りが必要です。特に千日紅は、イチゴのように丸く美味しそうに見えるようです。

[観葉植物の水耕栽培(ハイドロカルチャー)]

夏になると涼しげに見える水耕栽培プログラムを行います。植付け材に何を使用しようか考えたのですが、今年は、炭を使用することにしました。（写真③）カラフルな透明ゼリーは、間違って食べてしまわれるかもしれません。丸いハイドロボールは容器を倒してしまったときに転がり広がってしまうので片付けが大変なことと、取り残しがあると踏んで転倒のリスクがあります。結局、消去法で炭を使用して、お好みの植物を選んでいただいて植え付けました。観葉植物は、フラワーアレンジメントを飾った時のような華やかさはありませんが、穏やかにテーブルを彩ってくれ、そこにあるだけで場が和みます。お世話好きな方が水やりをして下さっていて、1 か月以上が過ぎても元気に食席に鎮座しています。

③観葉植物の水耕栽培

10月

月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21 ★	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

11月

月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25 ★	26
27	28	29	30			

12月

月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

- 10月初旬　　はなとわ118号発行
- 10月14日（土）~15日（日）
  人間・植物関係学会、日本園芸療法学会　合同大会
- 10月21日（土）長居植物園イベント
- 10月22日（日）実行委員会：19:30～
- 11月11日（土）実行委員会：19:30～
- 11月25日（土）長居植物園イベント
- 12月　9日（土）第2回理事会：19:30～

事務局だより

【年会費納入のお願い】

★2023年度会費の納入をお願い致します。

正 会 員：　7,000円　　購読会員：3,000円

法人会員：30,000円

賛助会員：1口5,000円　　学生会員：3,000円

振込先：郵便振替　NPO法人園芸療法研究会西日本

口座番号　00920-1-67395

会費納入の振込先は郵便振替以外に、下記の銀行口座もご利用いただけます。

三菱UFJ銀行　伊丹支店　普通預金

口座名：　NPO法人園芸療法研究会西日本

店番：477　口座番号：0313750

★毎月の実行委員会では、会の運営の検討や園芸療法関係の情報交換をしています。正会員ならどなたでも参加できます。（原則：各月第2土曜日　WEB会議）

★情報・寄稿を随時募集しています。

Ｅメールもしくは ＦＡＸでお願いします。

E-mail：info@ht-w.org

FAX.：072－783－8739

その他お問い合わせは、お気軽に事務局まで。

編集後記：9月30日(土)、当会「遊山の会」が高知県立牧野植物園で行われました。折しも、春からNHK「連続テレビ小説」で植物学者・牧野富太郎氏をモデルとしたドラマ「らんまん」が、9月29日まで放送されていました。牧野氏の「雑草という草はない」という名言は有名ですが、ドラマを通して、植物だけではなく、どんな片隅で生きている人にもそれぞれ個性や特性・役割があり、誰でも、自分にも、生きる意味や価値があることを感じさせてもらえる、そんな勇気と元気をもらえる物語でした。実際の牧野氏は、多額の借金をして借家を転々としたとのことで、連れ添った壽衛夫人が内助の功で支えたのだとか。牧野富太郎氏という、とてつもない偉人の妻もまた偉人なのでした。

当会情報誌“はなとわ”は、会員の皆様からの情報や寄稿を重視して掲載していく方針です。皆様の寄稿を心よりお待ちしています。（青木）